

●●●● 平成22年度 大洲市中学生海外派遣事業 ●●●●

※この事業は(財)榊山教育振興会の助成を受けて実施しています。



ゴールドコースト観光

大洲市中学生海外派遣事業に参加して

団長（大洲北中学校 校長）五 藤 修 一

今夏、7月27日から8月11日に実施された大洲市中学生海外派遣事業に、団長として参加する機会をいただき、市内各中学校の生徒12名と引率教諭2名の総勢14名で、オーストラリア南東部に位置し、シドニー、メルボルンに次ぐオーストラリア第3の都市で、クイーンズランド州の州都でもあるブリスベンに行って参りました。

今回我々を受け入れてくれた学校は、ブリスベン郊外にあるジンブーンバ小学校でした。児童数は950名程度と

ということでしたが、先生方をはじめ、どの子どももとても親切な上に友好的で、行き交う度に「コンニチワ」と声をかけてきたり、手を振って微笑んだりするような子どもたちばかりでした。お陰で我々は、快適な環境の中で楽しく学んだり、生活したりすることができました。午前中は派遣生たちだけの英語学習で、オーストラリアの歴史や文化・生活について学び、午後からは各学級に入って、音楽やダンスなど実技教科を中心に、ジンブーンバ小学校の児童と共に学びました。

この2週間で英語力が大幅にアップしたということはないでしょうが、英語だけがコミュニケーションの手段だという状況に置かれたということが、非常に貴重な体験であったと思っています。特に、自分の言わんとしていることが相手に伝わったときの嬉しさや安堵感、伝えることができないというもどかしさや無力感は、自分自身を振り返ることにつながったのではないかと考えていますし、言葉で通じ合えるということの大切さや郷土・大洲のよさを再認識する良い機会になったのではないかと考えています。何より派遣生にとっては、親の有難

さが身に染みた2週間ではなかったかと思います。この貴重な体験が、これからの学校生活や進路選択に生きてくるものと思います。

このような貴重な機会を与えてくださいました大洲市・大洲市教育委員会、また榊山教育振興会の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

平成22年度 大洲市中学生海外派遣日程

7月27日(火)	出発式、松山空港から伊丹空港へ、バスで関西空港へ移動し、ゴールドコーストへ
7月28日(水)	ゴールドコースト着、ブリスベンへ移動し、市内研修、受け入れ校オリエンテーション、ホームステイ開始
7月29日(木)	大洲市中学生のための研修プログラム ・英会話クラス（午前×7日間） ・一般授業参加（午後×7日間） ・交流授業
↓	・キャンパスツアー
8月6日(金)	・銀行などへの訪問研修 ・ホストファミリーとの交流 ・さよならパーティ
8月7日(土)、8日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月9日(月)	ホストファミリーとお別れ、ゴールドコースト市内研修
8月10日(火)	ゴールドコーストから関西空港へ
8月11日(水)	バスで伊丹空港へ移動し、松山空港へ、帰国報告会



午前中の英語での学習の様子

大洲市中学生海外派遣事業

海外派遣事業を終えて

大洲南中学校 石本 弥生

私は、この海外派遣事業でさまざまな経験をする事ができました。私が1番うれしかったことは外国の友達ができたことです。文化や言葉が違い、少しとまどうこともあったけれど、積極的に話しかけ、友達をつくる事ができました。自分の気持ちが相手に伝わったときは、とてもうれしかったです。英語の発音が難しく、うまく伝えられないときがあったけど、絵を描いたり、動作で表現したりして、楽しく話をして生活する事ができました。ホストファミリーとも早く仲よくなり、外でサッカーをしたり一緒に料理をしたりと、いろいろな思い出ができました。今でも、ホストファミリーの方とメールをして、楽しい話をして



このような、素晴らしい体験をする事ができたのも、さまざまな方々の協力があったからだと思います。協力してくださったみなさん、本当にありがとうございました。

驚きと感動のオーストラリア

大洲南中学校 濱田 剛仁

この海外派遣事業は、僕にとって忘れられない一生の思い出となりました。オーストラリアの生活は、初めて体験することばかりで、驚きと感動の連続でした。

ホームステイでは、緊張して何をすれば良いのかわからず戸惑っている僕を、ホストファミリーは、笑顔で優しく受け入れてくださいました。英語は、初めは聞き取れなかったのですが、耳が慣れてくると、分かる単語が少しずつ増えました。すると、コミュニケーションをとるのが楽しくなり、積極的に話しかける事ができました。僕は、今まで以上に英語が好きになり、もっと勉強したいという気持ちが強くなりました。

休日には、ビーチや牧場に連れて行ってもらい、オーストラリアの大自然とふれ合う貴重な体験をする事ができました。

このような機会を与えていただいた関係者の皆様、引率の先生、11人の仲間たち、本当にありがとうございました。



日本と違う習慣を学び

大洲北中学校 大野 晏奈

私は、海外派遣事業で数多くの貴重な体験をすることができて、とても良かったと思います。

現地の学校を訪問して、一緒に日本語の授業を受けたり、ダンスやバイオリンの授業に参加したりして、交流を図ることができました。

また、カンガルーを触ったり、間近で写真を撮ったりと、オーストラリアでしかできないことも体験することができました。

言いたいことを英語でうまく伝えることができず、困ったこともありましたが、相手が言いたいことも徐々に理解することができるようになりました。ほかに、アボリジニについての資料をもらったり、パンをもらって食べたりして、目や耳や口を通じて多くのことを知る事ができました。生活や文化の違いは、行ってみないと分からないものだと



感じました。日本との違いをたくさん知ることができて、とても良かったです。

中学生海外派遣事業に参加して

大洲北中学校 高橋 純一

僕は、英語を学ぶために中学生海外派遣事業に参加しました。

現地の学校の授業は、すべて英語で行われました。担任のキャロル先生が話す英語は、日本の先生が話すものよりも速く、聞きとるのがやっとでした。「外国の英語は、日本で勉強したものよりも難しい。」と思いました。その授業では、英語のほかにも、オーストラリアのことについて学びました。内容は、動物・お金・アボリジニの文化などで、充実していました。

ホストファミリーの家でも、すべて英語でした。しかし、ファミリーが話す英語は、学校と違って聞きとりやすかったです。それに、僕が話す英語もちゃんと通じていて、うれしかったです。

この中学生海外派遣事業に参加して思ったことは、「もっと英語を学んで、もっと話したい。」ということです。これを目標にして、これからも勉強したいです。



たくさんの笑顔をお礼

平野中学校 谷本 結花

私は出発の前に、「自分の英語力をフルに活用する。」と目標を立て、出発しました。

オーストラリアの人たちは、明るく、フレンドリーな人が多かったです。町やショッピングセンターで、少しぶつかったりしたら、笑顔であやまり、買い物をした後は、客も店員も笑顔でお礼を言う。学校では、笑顔であいさつをしながら、手を振ったりハイタッチをする。そんなことが当たり前の生活でした。

ホストファミリーも親切で、「今日からここはあなたの家。自由にしてくださいね。」と言ってくれました。また、世界地図のふ厚い本の、日本のページにつけられた大きな付箋紙が印象的でした。お礼を一緒にしたり、大洲のパンフレットの説明をしてくれと言ったり、私がオーストラリアを知りたいように、彼女たちも日本を知りたいと思ってきていたようです。

この2週間で、目標通り英語力をフルに活用でき



ました。しかし本当のコミュニケーションは、文法を正しく使うことだけではなく、心と心が通じ合うことが大切なのだと気がきました。

一生の思い出となった海外派遣事業

肱東中学校 上本 優斗

僕は、今回の海外派遣に参加して、たくさんのことを学ぶことができました。その一つがコミュニケーションです。自分の気持ちを言葉で伝えるのが難しいとき、身振り手振りや表情など、身体のすべてを使って表現しなくてはなりません。そしてそれが伝わった時には、お互いが笑顔になります。これは世界の共通なのだと感じました。二つ目は優しさです。この約2週間お世話になったホストファミリーの方々、親元を離れて心細くなっている僕を温かく見守り、優しく接してくださいました。このホストファミリーのことを僕は一生忘れません。三つ目は感謝ということです。僕が海外派遣で一番多く使った英語は「Thank you」でした。簡単な言葉ですが、自分にとっては一番大切な言葉でした。これから、ありがとうを大切にしていきたいと思います。

このような機会を与えてくださったすべての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。



派遣事業に参加して

新谷中学校 高岡 千紘

期待と不安で出発した海外派遣でしたが、2週間はあっという間でした。その短い時間でも、様々な経験をすることができました。

始めの頃は、ホストファミリーとのコミュニケーションがうまくとれず、不安ばかりの毎日でした。食事はもちろん口に合わず、シャワーも5分で済ませるように言われたことには驚きました。日本以上に、水がとても貴重なんだと改めて思いました。ファミリーと過ごすことは、生活や文化の違いを肌で感じることで、良かったと思います。

でも、大変なことばかりではなく、平日に通う学校では現地の友達もできて、英語での会話は難しいけれど楽しかったです。英会話以外にもダンス、音楽などの授業にも参加させていただきました。

今回の派遣事業に参加して、英語でもっと自分の



言いたいことを伝えたい!という思いがつのりました。とても貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

海外派遣を終えて

大洲東中学校 北福 綾人

僕は、この海外派遣を通していろいろなことを体験し、学ぶことができました。中でも、特にホストファミリーと2週間過ごしたオーストラリアの生活は、とても楽しい思い出となりました。僕がお世話になったホストファミリーは、5人家族で全員とても優しく、すぐにホームステイの生活に慣れることができました。中でも特に長男のディランとよく遊びました。

僕達を通ったジンプーンバ小学校は、ディランの通っている学校だったので、学校もディランと一緒にバスで通学しました。外国でのバス体験もできたので良かったです。

週末は、家族5人でディランのラグビーを見にも行きました。ラグビーを見るのは初めてなので、オーストラリアで盛んなスポーツでもあるので、身近で見れて、とても良い経験ができました。また、この貴重な体験を今後の生活に生かしたいです。



大洲市中学生海外派遣事業

一生に一度の貴重な体験

長浜中学校 菊地 明穂

私はこの派遣事業で、たくさんの思い出ができました。

その一つがホストファミリーとの出会いです。今まで身近にいた家族や友達と離れることにより、不安でいっぱい私を、ホームステイ先のホストファミリーは、私が一人でいて寂しい思いをしないように、いつも面白い顔をしては、笑わせてくれました。だから、始めは寂しい思いもしましたが、慣れてくるととても楽しく、帰る時には「まだここにいたい。」という気持ちでいっぱいになりました。

そして嬉しかったことは、なかなか思うように通じない英語が相手に伝わったことです。また、話している英語が逆に解ったことなどです。国は違いますが、言葉一つで繋がることのできることに、すごいと思いました。



最後に、このような貴重な体験をさせていただいた家族、企画して下さった皆様には、とても感謝しています。

海外派遣を終えて感じたこと

長浜中学校 新山 真直

海外派遣事業を通して、オーストラリアの生活の様子を学ぶことができました。そして、ホストファミリーとの出会いが、私にとってとてもすばらしい思い出になりました。

私のホストマザーは仕事が忙しく、夜遅くまで帰ってきませんでした。しかし、その中でも私とコミュニケーションをとろうと一緒に遊んでくれたり、会話をしてくれたり、土日はビーチに連れて行ってくれたりしました。ホストシスターと、夜遅くまで紙ふうせんや御手玉で遊びました。ホストマザーやホストシスターだけでなく、家族全員とたくさんのコミュニケーションをとることができました。ホストファミリーが温かい目で、私に家族のように話しかけてくれたことが、私にとって1番うれしかったです。

海外での充実した16日間は私にとって、これからの生活に大きな影響を与えてくれました。このような機会を与えて下さった方々へ感謝したいと思います。



オーストラリア海外派遣を終えて

肱川中学校 富永 菜都美

私は、今回のオーストラリア海外派遣で、たくさんの思い出ができました。

一番心に残っていることは、ホストファミリーとの生活です。ファミリーはなかなか英語が理解できない私に、いやな顔ひとつすることなく笑顔で接してくれました。ジェスチャーや簡単な単語を並べて、何度も私に話しかけてくれてとてもうれしかったです。

ホストスクールでも、たくさんの先生や生徒が話しかけてくれました。みんな目が合うと微笑んでくれ、また、たどたどしい日本語で「こんにちは」とあいさつをして、何回も「ナツミ」と呼んでくれました。言葉では通じてなくても、思いや考えがすごく伝わってきて、言葉よりも大切なものを感じることができました。しかし、英語が必要ということもわかり、今まで以上に英語を知りたいと思うようになりました。



今回お世話になったみなさま、本当にありがとうございました。

伝え合うこと

河辺中学校 谷本 彩香

ホストファミリーに会うまで、私は学校の授業や家庭での生活の中で、外国のことをたくさん学べるというなと思っていました。けれど、オーストラリアのみんなは私に私の住んでいる地域のことや私のクラスメートのことなど、たくさん質問してくれました。ほかにも、ホストファミリーがオーストラリアの英語を教えてくれる代わりに、私が簡単な日本語などを教えてあげることができました。私だけが教えてもらうのではなく、私にもたくさんのお話を聞いてくれました。日本について興味をもってくれていると分かって、本当にうれしかったです。この16日間で、日本には絶対できない体験がたくさんできたと、大切なもう一つの家族、友達ができてよかったです。一生忘れられない夏休みになりました。最後になりましたが、大洲市教育委員会、また榊山財団の方々をはじめ、お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。





「自分を出す勇氣」

大洲北中学校 教諭 米澤 光

12名の派遣生たちは、勇氣を振り絞ってこのチャンスを手にした。中学生の時期に、オーストラリアへ行きホストファミリーと2週間過ごすということはとても貴重な体験である。環境が変わり、言葉が通じず、思うようにいかない…。しかし、そのような状況の中でも派遣生たちは、さまざま不安やためらいも「勇氣」によって確固たる自信にかえていった。私は、そのようなたくましい彼らとともに過ごせたことを幸せに感じる。

長い人生の中でわずか16日であるが、私たちにとっては一生心に残る思い出がたくさんできた。大規模な自然の中で、ホストファミリーと本物の家族のように過ごす日々、ジンブーンバ小学校の先生方や生徒たちの温かな思いやり、派遣生たちの一生懸命な姿勢などがとても印象的であった。特に、派遣生たちは英語でのスピーチに挑戦したり、分からないことを何度も英語で尋ねたりする努力を惜しまなかった。そこには、素直な自分をさらけ出し、可能性を広げようとする勇氣があったからだ。

これからの学校生活において、派遣生たちはさらに英語の学習に力を入れ、自分たちが体験したことを周囲の方に伝えていくべきである。そして、今回の体験で学んだ「自分を出す勇氣」をぜひ継続して欲しいと願う。

私は、英語教員として、人として、「心のゆとり」が必要であると感じた。どんな状況でも自分の考え次第で、より豊かな生活が送れると感じた。今後は、常に「心のゆとり」をもって、生徒の可能性を引き出せる教員になりたいと思う。

サポートしていただいた多くの方に心から感謝しています。このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

お知らせ

国道における事故危険箇所アンケートにご協力を

国土交通省では、主に国道において日ごろ皆様が危険と感じている箇所を把握し、今後事故防止対策を実施していく箇所を選定する参考とするために、アンケート調査を実施しています。

【期間】
10月15日(金)～11月15日(月)

【アンケート回答方法】

○インターネット
国土交通省松山河川国道事務所ホームページ
<http://www.skr.mlit.go.jp/matsuyam/>

○郵送
市役所1階ロビーにアンケート用紙を設置しています。

【問い合わせ先】
国土交通省松山河川国道事務所 道路管理第二課
☎089-972-0611

道路交通センサスのお知らせ

国土交通省では、都道府県、政令指定市、高速道路会社などと連携して、平成

22年9月から11月にかけて、全国で自動車の使われ方や道路交通状況を調べる「道路交通センサス」(全国道路・街路交通情勢調査)を実施します。道路交通センサスの調査結果は、将来の道路交通計画を策定する上での重要な資料となるものです。道路交通センサスのうち、自動車起終点調査については、無作為に選定させていただいた全国約180万人の自動車を所有する人・事業者のみなさんに対するアンケート調査です。調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

道路交通センサス サポートセンター
☎0120-003-125

○受付時間

午前9時～午後6時
日曜・祝日を除く
※詳細については国土交通省HPをご覧ください。
<http://www.mlit.go.jp/road/h22census/>

全国都市交通特性調査(全国PTI)

○平成22年度 全国都市交通特性調査を実施します。高速道路無料化社会実験